

「常盤橋のあり方検討会」について（報告）

平成7年(1995年)に木の橋として建設した常盤橋は、昨年9月27日から利用者の安全確保を図るために通行止めとしている。

については、これまでの経緯、現在の状況及び「常盤橋のあり方検討会」について報告するもの。

1 建設時の経緯

常盤橋は、平成2年(1990年)認定の「紫川マイタウン・マイリバー整備計画」で紫川の川幅を広げる河川改修にあわせ、長崎街道の起点という地理的条件や歴史性・文化性に配慮し、江戸時代の長崎街道を連想させる歩行者専用の木造の橋として、平成7年に架け替えたものである。

架け替えに際しては、当時、50年以上の耐久性があるとされていた外国産の木材(ボンゴシ材：西アフリカ産)が使用されている。

2 類似橋の腐朽(損傷)：状況の変化

◇平成11年(1999年)、ボンゴシ材を使用した他都市の橋が、木の腐朽により建設後10年ほどで落下する事案が発生した。

◇落下した橋を国の機関が調査した結果、腐朽の原因が「白色腐朽菌」であることが判明した。「白色腐朽菌」は、広葉樹の病害菌として広く一般的に存在し、特殊な分解力を持つ菌ではないとのこと。

◇また、その後の調査において、ボンゴシ材を使用した各地の木橋にも腐朽が確認され、常盤橋でも調査したところ、同様の腐朽の兆候が確認された。

◇そこで、常盤橋を長く使い続けるため、専門家の助言を受けながら、防腐処理などの補修、木材の接合部の補強、床材の軽量化など、計4回の対策を行い、あわせて、継続的に橋の沈下量を観測するなど大切に見守ってきた。

回数	年度	実施内容
1回目	平成16年 (2004)	防腐処理、水対策、継手部補強、床版取替、断面修復
2回目	平成19年 (2007)	床版の部分取替
3回目	平成21年 (2009)	防腐処理、水対策、床版取替、断面修復、地覆撤去
4回目	平成26年 (2014)	防腐処置、水対策、床版取替、断面修復

※沈下量観測：平成19年度から実施

◇このような中、昨年9月、橋の沈下量に変化と損傷が確認され、利用者の安全確保のために通行止めとし、その後、重点的な監視や調査を行っている。

3 「常盤橋に関する懇話会」の開催：地域の思いなどを受け止め

令和7年1月31日、常盤橋の今後を考えるにあたり、地域の方々と現在の状況を共有し、意見を聴く場として「常盤橋に関する懇話会」を開催した。

◇地域の方からの意見

「とても深い思いがある」

「歴史と文化が大事」

「常盤橋は生活用の橋である」

「まちづくりにとって一番大事なキーワードが常盤橋である」

「外観は木で、中身は鉄でもコンクリートでもいい。早く通れるようにしてほしい」

などの意見を頂いた。

◇専門家からの意見

「地域を面と捉えることが大事」

「ウォークアブルなまちづくりがキーワード」

「税金を使うからには、市民の理解や丁寧な説明が必要」

「市民の寄付、クラウドファンディングなど、財源確保の工夫が必要」

などの意見を頂いた。

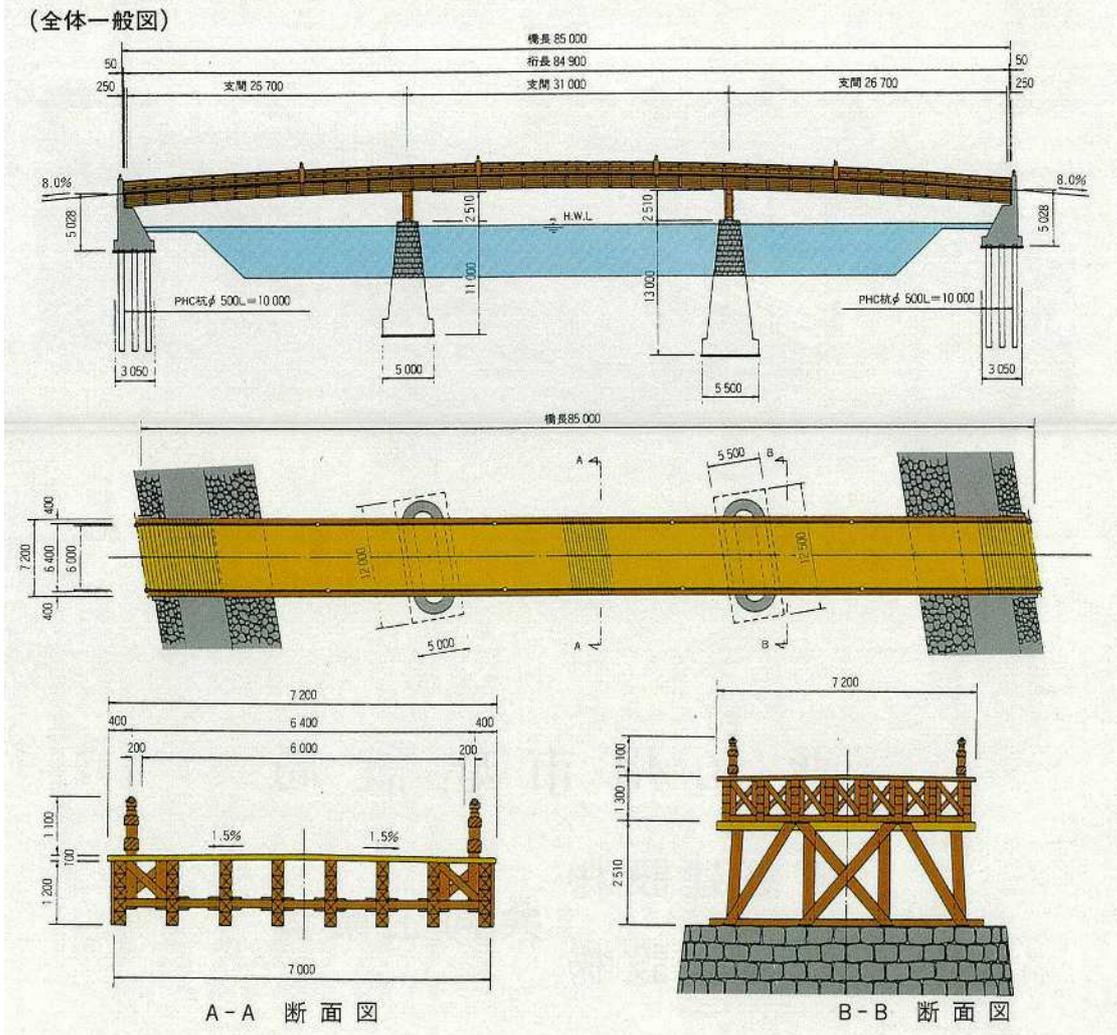
4 「常盤橋のあり方検討会」の立ち上げ：本格的な議論のスタート

◇今後の常盤橋のあり方について、「常盤橋のあり方検討会(以下、検討会)」を立ち上げ検討を進める。

◇第一回の検討会は、今月末に開催する予定である。

常盤橋（木の橋）の概要

橋梁形式：3径間連続ダウエル積層桁(歩行者専用)
 供用開始：平成7年4月23日(事業期間：平成4年度～平成6年度)
 諸元：橋長85m 幅員7.2m(有効幅員6m)
 使用材料：木部(ボンゴシ、チーク)、鋼部(ステンレス)



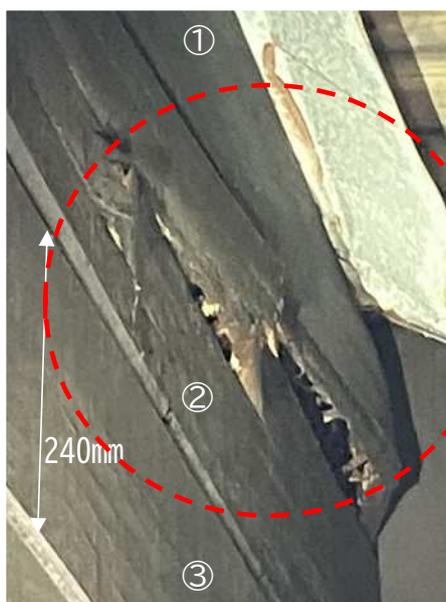
常盤橋の損傷状況



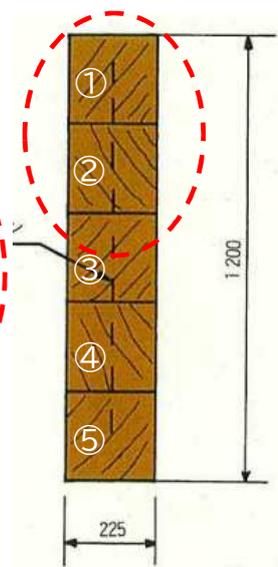
【勝山橋（南側）から撮影】



損傷状況(上流側左岸)



損傷状況 (拡大写真)



主桁断面